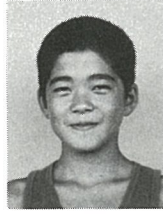


春の夜に
照らすろうそく 美しや



6年
平山 律子

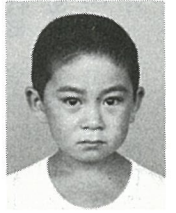
山々に
高く素速くつばめ飛ぶ



6年
市原 国雄



ピアノをふくともだち



1年
いとう ゆうき



6年
橋村 法子

富士山の五合目から白々としたアルプスが見えます。耳をすますと、雪どけ水の音が聞こえます。なんと、美しい自然の音楽だろう。

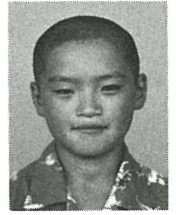
富士の山
アルプスのぞむ五合目に
雪解け水の音を聞こゆる



6年
大木 康明

五月晴れの日、富士山をながめると、頂上にはまだ雪が残っていた。「なんと、美しいながめだろう。」自然の美しさに感動した。

五月晴れ
ながめる富士の 残る雪



6年
実川 光治

雪解けず
白く光るは 春の富士

富士の五合目には、まだ雪が残っている。その雪は、日の光をあびて、キラキラとかがやいている。なぜ富士の雪は、解けないのだろうか。だが夏には解けてしまふのか。もう一生解けないでほしい。

我が家の家庭教育

シリーズ ③〇

木戸 田 中 美重子

小学二年の娘と、三才の息子。まだまだ先輩のお話を参考にしたい、子育てで真最中の立場である。そんな私にとって、このテーマを与えられた事は、これからの子育てを真剣に考える良いチャンスだと思えます。

私の子育てを一言で言い表わせれば、女は「細やかに」男は「大らかに」です。社会に数多くの女性管理者が現われ、男女平等が進んでいる今日でも、女性のマナーの悪いのは感心できません。しかし男性は少々の事なら許されてしまふ、というように依然として男女の差は現存しています。従って我が家では、女の子には自然と厳しく接しているように思われます。それに初めての子とあって、親の側での子育てに対する不安と戸惑い、そ



6年
高野 里美

山の中
ポスト探して歩く道
野いちごぬらす 六月の雨

して、理想に近づけようとするあせりからもつい口うるさくなってしまう。それからもう一つ。言葉がわからないうちは、叩く事で善悪を教えます。これには賛否両論あるでしょうが、お尻は、「教育の丘」とも呼ばれるように、時には必要な事です。

ただ清潔すぎるが故に、厳しすぎてもかえって親に反抗するようになる可能性もあるので、その辺は大変むずかしく思えます。娘が下の子を叱っている口調、態度にハッとさせられる事しばしば、まさに、それは私自身であり、娘は私のコピーなのです。「あんな言い方しなくてもいいのに」と娘に言っている自分がおかしくもあり、反省もさせられます。従って、子育てとは、同時に親自身が品性を高めて行く事であり、私自身、道徳的、人間的教養を身につけながら、子供と一緒に成長していけたらと思っています。